

## 第247回

### 「元気に百歳」クラブ・俳句サロン「道草」(令和7年11月)句会記録

10月の句会記録でも話題にした小川軽舟著「名句水先案内」は、軽舟さんが水先案内をして読者と共に名句を訪ねて旅に出ることを企図したものです。令和6年4月に角川文化振興財団から発刊されたもので、4月に始まり3月までの一年間と、追補があつて、軽舟さんが名句と思われる句を、各月ごとに夫々40句ほど紹介しています。

これによりますと十一月は、「通り過ぎる月」との紹介があり、軽舟さんの解説では、「秋の行楽シーズンが終わってから、師走を迎えるまでの間に、なんとなく過ぎ去るのが十一月。十二月になって十一月が終わったことに気づく。初冬の季語の少ないことも存在感の乏しい一因かもしれない」とあります。そして、「十一月もうかうか通り過ぎてしまわないよう、しっかり俳句にしてやりたいものだ」とあります。

また話題を換えますが、今年の流行語大賞の候補語に「二季」という言葉が選ばれています。短い春秋が無くなって、一年を構成する季節は、暑い夏と寒い冬の二季になるのではないかという意味でしょうか。春と秋がないということになると、俳句を楽しむ訳にはいかず、困ったことになります。まあ、冗談はともかくとして、今月の句の出来具合は如何でしょうか。句会に参加された方は次の通りです。

#### 11月投句に参加された方(12名)

板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、金田月草さん、辻 柴楽さん、手嶋錦流さん、原 晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然。

#### 句会に参加された方(6名)

和感さん、一光さん、月草さん、晶如さん、傘吉さん、白然。

#### 本日の優秀句並びに獲得票数

11月の優秀句、並びにその中から天賞に推挙された句と、最多得票賞(☆印)の句は、下述の通りです。

◎『今暫し富士は影絵の寒茜』	傘吉	天3☆6
◎『窯の跡野良の居座る小春かな』	清助	天2☆6
◎『暮らし向き変へず変はらず冬来る』	白然	天2㊦4
◎『浅漬のこりこりいふて朝の膳』	多佳	天1㊦3
◎『雲越しに半月見ゆる冬の空』	月草	天1㊦3
◎『散歩道かすかに揺れる忘れ花』	一光	天1㊦2
◎『アルバムの子は微笑む小夜時雨』	傘吉	天1㊦2
◎『かあでいがん袖たくし上げ厨かな』	月草	天1㊦1

傘吉さんが先月に引き続き、上述の「今暫し富士は影絵の寒茜」が、二か月連続の最多天賞獲得受賞と、三か月連続して最多得票数獲得受賞の栄に輝きました。素晴らしいことです。拍手！そして、今月の受賞句「今暫し富士は影絵の寒茜」とは……。冬の茜空は、他の季に増して美しいもの、上五の「今暫し」の表現が、移ろいゆく茜空にくっきり影絵のような黒い姿を残す富士、「今暫く待つて」と願う詠み人の声が聞こえてくるようです。

次に清助さんの句「窯の跡野良の居座る小春かな」が、天賞二つ、得票は傘吉さんと同じく最多得票数6票を獲得されました。小春日和であることが窯の跡を今も暖かくしているようで、この野良とあるのは野良猫でしょう、大満足の様子が見えます。読者の多数の投票をいただきました。

白然の句「暮らし向き変へず変はらず冬来る」も、天賞二ついただきましたが、選句記録の「ひと言」に、傘吉さんが素晴らしい評を残して下さっています。有難うございます。

次に多佳さんの句「浅漬のこりこりいふて朝の膳」が、天賞一つを獲得しました。浅漬けという大根や白菜の短期間の漬物、この句で使われた「こりこり」という擬音語（オノマトペ）が、大根の漬物を齧る音を連想し、新鮮な冬の朝の膳を思い浮かべました。

次に月草さんの句「雲越しに半月見ゆる冬の空」が、天賞一つを獲得しました。冬の空のはっきりとして、上五、中七に表現されたように、「雲越しに半月見ゆる」に情景をこめられました。

今月は何かが一寸足りない、今一つ覇気がないというご意見が聞こえてきました。何か足らざるところがあったのでしょうか。本間さんのまとめて下さる「選句のまとめ」、「ひと言」は、自分の句は「季違いに」なっていないかなど、何度も読み返し、もう一度「舌頭千転」し、次の句も今一度、推敲されてみては如何でしょうか。

「小春日や豪華客船入港す」	歌多音
「散歩道かすかに揺れる忘れ花」	一光
「寒暖差マフラー一つ忍ばせり」	和感
「公園に子らを遊ばせ毛糸編む」	和感
「かあでいがん袖たくし上げ厨かな」	月草
「室の梅心揺さぶる筆の文字」	晶如
「帰り花ひとつふたつを仏壇に」	清助
「荒庭の真直ぐに立ちし石蓐の花」	多佳

さあ来月は十二月、年の暮れです。インフルエンザに罹らぬよう元気に暮らしましょう。そして句会で元気にお会いしましょう。

（白然記）